



台東区議会公明党

しみず こういちろう
清水 恒一郎

区長の政治姿勢について

問 変化の厳しい時代の中での今後の区政のかじ取りと、区民の目線に立った政治姿勢について、区長の決意を伺う。**答** 急激な景気後退以降、2次にわたる緊急経済対策と、雇用・中小企業支援対策を実施してきました。来年度も、国の財源を活用し、雇用創出に係る諸事業を実施します。また、新たに策定した新観光ビジョンに基づき、地域経済の活性化に向けた取組みを着実に進めていきます。今後も、常に時代の動向を注視しながら、区民の皆様が安心して暮らすことができるよう、区政運営に全力を傾注していきます。

平成22年度予算について

問 ①予算の中で、特に力を入れていく事業は何か。②予算編成において、どのような課題があったか。③真に必要な分野に十分に配分されたか。④区長自身が心からよくやったと思える予算編成であったか。**答** ①予算に計上したすべての事業が重要ですが、保育所待機児童に対応する「小島保育室」設置などの子育て分野、東京スカイツリーの開業を見据えた「台東・墨田観光アートプロジェクト」などのまちづくり分野、退院後のリハビリを支援する「在宅リハビリテーション支援」事業などの健康分野等に、重点的に予算配分を行いました。②経済危機や政権交代など、政治経済状況の変化が続く中で、子育てやまちづくりなどの区の重要施策を、いかにして着実に実施するかが課題でした。③全庁を挙げて経費の削減と歳入確保に努めた結果、長期総合計画の後期計画や行政計画に基づく事業など、真に必要な事業に限りある財源を配分することができました。④社会経済情勢の急激な変化や、区財政を取り巻く厳しい状況を見極め、区民の皆様が安心して生活を送ることができる予算を編成できたと考えています。

文化観光について

問 ①区の観光を取り巻く環境が変化する中、策定中の新観光ビジョンの方向性とも合わせて、どのような観光都市を目指すのか。また、どのように文化・観光施策を推進していくのか。②ものづくりや伝統工芸などの産業と、文化・観光をどのように連携させていくのか。**答** ①新観光ビジョンでは、区の観光の目標とする姿を「本物に会えるまち」としています。「多面的な観光魅力の創出」などの視点から5つの基本方針を立て、5年間に取り組む86の事業を盛り込みました。さらに、「観光滞在・観光消費充実戦略」をはじめとする7つの戦略プロジェクトにより、個々の施策を有機的につなげ、効果的な展開を図ります。今後は、新たに「台東区新観光ビジョン戦略会議」を設置し、計画全体にわたる進行管理を行い、文化・観光施策を着実に推進していきます。②新観光ビジョンに「みやげ品コンテストによる魅力ある商品の発信」や「文化やものづくりを体験する観光コースづくり」といった施策を盛り込み、産業と文化・観光の連携を強化していきます。

台東病院について

問 ①地域の診療所や病院、介護事業者などとの連携について、どのような取組みがされてきたか。②地域連携相談室の機能について、区はどのように評価しているか。③今後、地域医療振興協会とともに、どのような点に力を注いでいくのか。**答** ①病院内に連携会議を設置し、在宅医療を担う医師や訪問看護師等との症例検討や情報交換を行っています。また、診療所からの紹介による緊急一時的な入院の受け入れなど、地域の医療機関や介護事業者との様々な連携のシステム化に取り組んでいます。さらに、在宅復帰に向けた支援として、地域の医師などと共同して、患者や家族に対し、在宅療養する上で必要な説明や指導を行っています。②本年1月には、入院・入所の利用率が約90%に達し、また、退院・退所時においても、円滑な在宅復帰が図られており、地域連携相談室の機能が発揮されているものと評価しています。③他の医療機関や介護事業者等の関係機関とのさらなる信頼関係を築くために、交流を深め、情報の共有化を図る、「顔の見える連携」を構築し、利用者サービスの向上に取り組んでいます。



日本共産党台東区議会議員団

もてぎ たかよし
茂木 孝孔

区長の政治姿勢について

問 「政治とカネ」疑惑及び区長自らの政治資金について、㉗民主党幹事長は、資金管理団体による土地購入疑惑問題で、不起訴処分となったが、疑惑が解明されたわけではない。これからが正念場である。民主党自身が自浄作用を発揮して事実を明らかにすべきであると同時に、国政の場で真相解明に全力を挙げるべきと考えるが、どうか。①企業・団体献金の即時禁止についての認識を伺う。②区長が政治献金を受けている企業への、区の仕事の発注額は2年間で約4億円にものぼる。こうした献金について、「政治資金規正法に則っており、違法でないから問題なし」という認識は、政治的にも道義的にも通用しない。即刻やめるべきではないか。**答** ㉗国政の場で論議されるものと認識しています。①㉘企業・団体献金は、法に則り適正な処理をしていくことが重要と考えます。政治資金も同様に適切に対応していきます。**問** ㉙来年度予算について、なぜ区民の暮らしの実態を踏まえた予算編成をしないのか。この視点こそ区民本位の区政になるかどうかの分水嶺と考えるが、どうか。①事務事業の見直しで削減された、暮らしに役立つ事業を復活させることや、中小零細事業者を直接応援する施策を実施するなど、区民の暮らしを直接暖める施策に予算の重点配分を行うべきではないか。②これまで、もっぱら区財政の厳しさが強調され、行政経営推進プランによって区民の暮らしに追い討ちをかけてきた。本当に大変なのは区の財政ではなく区民の暮らしであることを直視すべきと考えるが、区長の認識を伺う。③上野中央通り地下駐車場にみられるように、大型公共事業に莫大な予算を投入しながら、一方で、財政の厳しさを理由に、自治体本来の役割である区民サービスを縮小・削減してきた区政運営の誤りを認

め、行政経営推進プランの改定に活かすべきと考えるが、どうか。**答** ㉗㉘㉙日々の区政運営において、常に区民の暮らしに触れ、切実な声に耳を傾けるとともに、意識調査等を行い、施策や事業内容に反映させてきました。また、財政健全推進計画等に基づいて事務事業の見直し等を進め、健全財政を維持し、多様化する行政ニーズに対応してきました。さらに、緊急経済対策に取り組んできました。区民の目線に立ち、日々の暮らしを守り続けるとともに、将来を見据えた施策を展開することが重要な責務と認識しています。予算編成にあたっては、区民が安心して生活を送ることができるための施策へ重点的な予算配分を行いました。新たな行政経営推進プランは、今後の財政状況も楽観できる状態ではないことから、早期に策定に着手します。区民サービスを低下させることなく、健全な財政運営を堅持し、将来にわたって区民の暮らしを守る責務を果たしていく所存です。**問** 住民サービスに影響する分野では、職員の質の向上とともに、職員数を増やすなどの措置が必要と考える。特に、生活保護受給者が急増する中、福祉事務所の職員増は不可欠と考えるが、どうか。**答** これまでも本区的生活保護世帯の実態に合わせ、必要な人員を配置してきました。来年度も被保護世帯の増加等の動向に留意しつつ、制度の適正な運営を確保する観点から、引き続き、所要の人員の配置に努めていきます。**問** 職員を削減しながら、高額の財政支出を伴う副区長を2人体制としたが、何が前進したのか。副区長は1人でも十分だったのではないかと。また、本年3月で、山田副区長の就任期間である2年が経過するが、どうするのか。副区長2人体制をやめるべきと考えるが、どうか。**答** 新観光ビジョンの策定や東京スカイツリーの開業を視野に入れた事業の展開など、副区長がこの2年間、精力的に観光とまちづくりを一体的に推進したものと高く評価しています。山田副区長には、4月からは国土交通省でさらに活躍していただきたいと存じます。副区長の二人制については、区政の課題に応じ、必要性を見極め、適切に判断していきます。

4面・5面に掲載したもの以外の一般質問の項目

寺井 康 芳 (台東区議会自由民主党)

1. 民主党政権について
2. 子育て支援について
3. 産業振興プラン策定のための実態調査について
4. 谷中防災コミュニティーセンター建設について

成 澤 敬 (台東区議会区民クラブ)

1. ゴミ収集について
2. ボランティアの受入体制について

小 菅 千保子 (台東区議会公明党)

1. 予防できる唯一のガン「子宮頸ガン」について
2. 幼児教育について
3. 発達支援の体制について

石 塚 猛 (台東区議会自由民主党)

1. 保育園の待機児童対策について

一般質問の詳しい内容は、会議録(6月下旬発行予定)をご覧ください。
会議録は、区議会ホームページ (<http://taito.gijiroku.com/voices>)、区立図書館、区役所3階区政情報コーナーにてご覧いただけます。